

パソコン と 計算機



～ 日本発コンピュータの開発～

2018年 10月28日(日)

～ 12月1日(土)～

※10月28日(日)はホームカミングデー
理大祭 11月24日(土)・25日(日)も開館

【開館時間】 10:00 ～ 16:00 【休館日】 日・月・祝日

【入館料】 無料

【場所】 東京理科大学 神楽坂キャンパス
近代科学資料館 2F 企画展示室

【主催】 東京理科大学近代科学資料館

所在地：東京都新宿区神楽坂 1-3

TEL：03-5228-8224

FAX：03-5228-8116

地下鉄「飯田橋」B3出口 徒歩3分

JR 総武線「飯田橋」西口 徒歩4分



【展示協力】

NTT 技術史料館 大阪大学総合学術博物館 株式会社オーム社

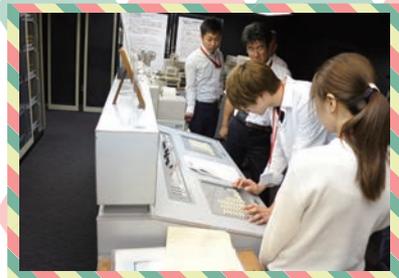
樫尾俊雄発明記念館 情報処理学会歴史特別委員会

東京大学 工学・情報理工学図書館 理7号館図書室

富士通株式会社 早稲田大学基幹理工学部情報理工学科



今やコンピュータは私たちの生活に欠かせないものとなっており、巨大な IT 産業がもたらされ、多くの分野で AI 時代の到来が予測されています。日本の IT 産業もハードウェア開発からサービスソリューション提供へと重点を移しています。この時代に、戦後日本の得意としてきた物づくりの分野においてコンピュータがどのように開発されたかを知ることでコンピュータの原理に興味を持ち理解を深めることができます。また、先人の不屈の努力や信念に触れることで、新しい研究・開発への勇気を得ることができるのではないのでしょうか。日本の技術者がどのようにしてコンピュータを開発したのかコンピュータの素子と人に注目して紹介します。



▲富士通(株)川崎工場
富士通テクノロジーホールにて
東京理科大学の応用数学科の学生が制作した
プログラムを実際に FACOM138A(1957年)にて
動かしている様子。

～日本発コンピュータの開発～

パラメトロン
と
リレー計算機



▲FACOM 201 1960年
日本独自のパラメトロン素子による科学用
中型電子計算機として、科学計算、解析等
の研究や、技術者の養成に活用された。
東京理科大学近代科学資料館 常設展示



▲14-A 1957年
樫尾俊雄が考案した国産初の小型リレー式
計算機
樫尾俊雄発明記念館 常設展示

映像室
国産コンピュータ
ゼロからの大逆転



IV 計算するしくみ
リレー回路模型
論理回路の説明

III 情報処理技術遺産
IPSJ コンピュータ博物館

富士通リレー式計算機
技術継承プロジェクト

II トランジスタ以前の
コンピュータ素子

【パラメトロン式】
パラメトロン開発
後藤英一
MUSASINO-1B
と FACOM201

【真空管式】
FUJIC
岡崎文次

【リレー式】
FACOM100
FACOM128B
FACOM138A
池田敏雄
14-B 型
樫尾俊雄

I コンピュータが電子計算機と呼ばれた時代
第一世代 1940(昭和15)年
～1955(昭和30)年

出口

入口

近代科学資料館 2F 企画展示室



関連イベント ※要申込 各回定員 25名 詳細は HP にて

11月 8日(木) 13:00～ 「パラメトロンのお話」 IIJ 技術研究所 研究顧問 和田英一

11月 14日(水) 18:00～ 「富士通 リレー式計算機技術継承プロジェクト」
富士通特機システム(株) 内藤俊彦

11月 16日(金) 富士通(株)川崎工場 FACOM138A 実機実演 見学ツアー

11月 22日(木) 13:00～ 「計算に使う回路 - 論理回路の歴史」
国立情報学研究所教授 橋爪宏達



<https://www.tus.ac.jp/info/setubi/museum/>



東京理科大学近代科学資料館

【開館時間】 10:00 ～ 16:00

【休館日】 日・月・祝日

【入館料】 無料

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3

TEL : 03-5228-8224

FAX : 03-5228-8116